

医業承継についての論点整理

～経営の世代交代と医療施設の建替えを考慮した
医業承継計画の有効性～

< はじめに >

我が国では、戦後、高度成長期を経て 1980 年代にかけて、多くの医療機関が設立されました。現在、それらの多くの医療機関において、「経営者層の高齢化」と「建物の老朽化」が同時に進行し、かつてない対応を迫られています。「経営の世代交代」と「医療施設の建替え」は、どの医療機関においてもいずれ訪れる転換点です。

医療機関が、地域から必要とされる存在であり続けるためには、最大の資源である「人」(ソフト)が世代交代後も十分な力を発揮し、「建物」・「医療機器」(ハード)についても適切な時期に、適切な規模の投資がなされ、長期間にわたり、競争力ある水準を保たなければなりません。

ヘルスケアノート No. 11-11「医療法人の出資持分承継の税務」と No. 11-12「医療施設建替えプロジェクトにおけるコンストラクション・マネジメントの役割」において、ソフト・ハードの別々の観点から、アウトラインを解説いたしました。

本稿では、上記論点を総括するとともに、円滑な「医業承継」のために、「経営の承継」、「持分の承継」と「建物への投資」の3点を「医業承継計画の立案」の枠組みの中で連関させて、検討を進めることの有効性について考察します。

2011 年 11 月 30 日

Healthcare note

(No. 11-13)

執筆者
野村ヘルスケア・
サポート&アドバイザー
山口 亮
平岡 卓也

編集主幹
野村ヘルスケア・
サポート&アドバイザー
河添 麻美

野村證券株式会社
金融公共公益法人部